Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2016年３月）

発表日：2016年５月11日（水）

～足踏み状態から抜け出せず～

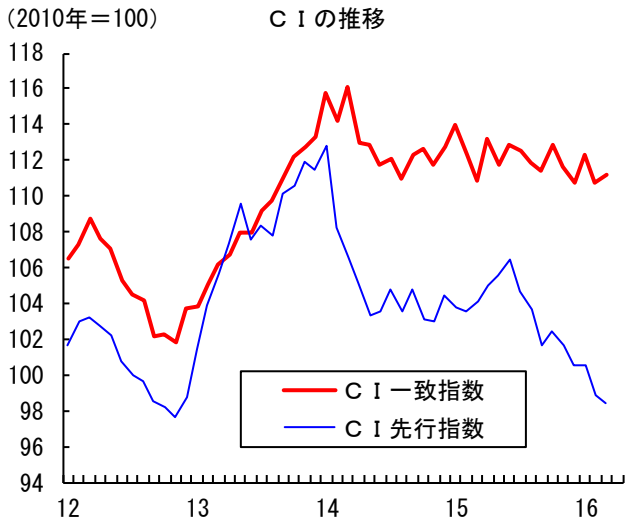
第一生命経済研究所　経済調査部
担当　主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○一進一退の推移が続く

内閣府から公表された 2016 年３月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋0.5 ポイントとなった。内訳では、小売業販売額や卸売業販売額などがマイナス寄与だった一方、鉱工業生産指数や生産財出荷指数などがプラス寄与となり、ＣＩを押し上げた。

ＣＩ一致指数は前月差プラスではあるが、２月に前月差▲1.6 ポイントと落ち込んだ反動の域を出ていない。ＣＩ一致指数は一進一退の足踏み状態にあり、回復感に欠ける状況が続いている。

１-３月期に減産となった鉱工業生産や、うるう年要因を除けばほぼゼロ成長にとどまったとみられるＧＤＰと同様、ＣＩ一致指数からも、１-３月期の景気が低迷したことが示唆されている。需要面からみても、個人消費や輸出、設備投資といった主要な需要項目がそろって懸念材料を抱える状況であり、景気は牽引役不在である。先行き不透明感も依然強く、景気の停滞感が解消されるには、まだ時間がかかりそうだ。



（出所）内閣府「景気動向指数」

また、３月のＣＩ先行指数は前月差▲0.5 ポイントと２ヶ月連続で低下した。悪化傾向は鮮明となっており、直近ピークである 15 年６月からの累計低下幅は 8.0 ポイントにも達する。水準でみても、３月は 2012 年 11 月以来の低水準にまで落ち込んでいる。ＣＩ先行指数からも、先行きの景気持ち直しは見えてこない。

○ 基調判断は「足踏み」で据え置き

内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持された。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることが確認できる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。